

—実験用スカートによる椅座時の布の伸
長さ分布としわの生成状態について—

金蘭短大 ○松下 知子
三重短大 橋本貴美子
大富千恵子

1. 第2報では実験用スカートにより片足上挙時の布の伸長さ分布を観察し、プリーツの深さと縫い止まりについての資料をえた。今回は後記のような実験用スカートにより椅座時の布の部位的伸長度を測定するとともに、座面接触部位に生成するしわを観察し、タイトスカート構成上の参考にすることを目的とした。

2. 実験用スカートの緯線方向に幅0.7cmのテープを4cm間隔につくった紐通しに通し、後中心で固定してスカート周囲を一周し、前中心で交叉させた。このテープをスカート丈の裾から上まで4cmごとに配し、テープには紐通し位置と合わせて印をつけておき、これを着用して椅座したとき布地の伸縮に応じてテープがずれるので、そのずれを計測して伸長度を算出した。座面接触部位のしわおよび布の状態については座面位に厚ガラスをおき、この上に椅座させ、下面より撮影した写真をもとに観察し、なお着用実験によってその実際の状態をたしかめた。

3. 前面では前中心に近い大腿部の位置の伸長度がもっとも大で、ついで膝までの間が大である。後は座面接触部位にもっとも近い中心部分の伸長度が大である。しわのもっともよりやすい位置は、前面において伸長さの大であった部位に相当する高さで、臀部のふくらみを包んだための布の余りはたたまれて折りじわになることを観察した。